

# 景況レポート

(4月分・情報連絡員80名)

## サービス業で悪化割合が減少、 業況DI値が好転

### 【概況(全体)】

4月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが7.5%(前回調査6.3%)、「悪化」が28.8%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-21.3となり、前月調査と比較し7.4ポイント上回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の製造業の景況DI値は低調に推移しているものの、非製造業で全国及び東北・北海道ブロックを大きく上回ったことから業界全体のDI値についても上昇を示す結果となった。

### 【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しており、サービス業では悪化割合が減少した。中でも旅行関連業種が好転したことが全体のDI値を引き上げる要因となった。

10連休を控えた前倒しによる売上増加効果から全般的に景況感が上昇した。しかし、人手不足の影響が大きくなってきており、受注・収益に留まらず、事業継続等にも大きな影響を与える懸念がある。また、消費税や働き方改革への対応を懸念する声も多く、中小企業の先行きは引き続き慎重に注視していく必要がある。

### ＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-21.3	-22.0	-23.8
製 造 業	-34.3	-24.3	-31.2
非製造業	-12.5	-20.2	-19.8

### ＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

#### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10以上 30未満  
 雨 10未満  
 雷雨 30以下

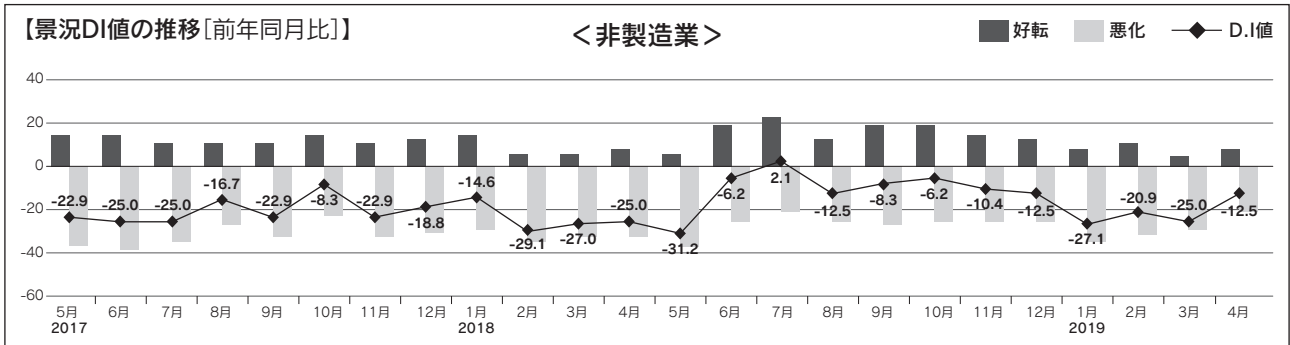
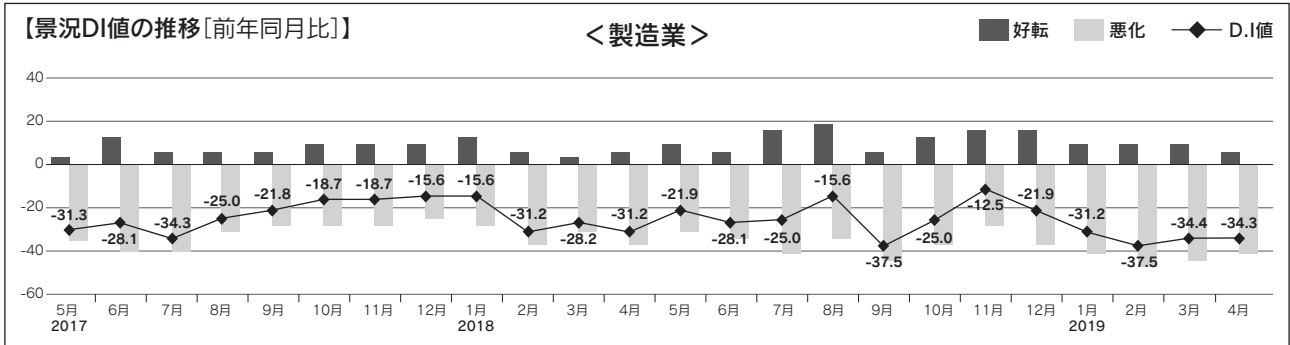
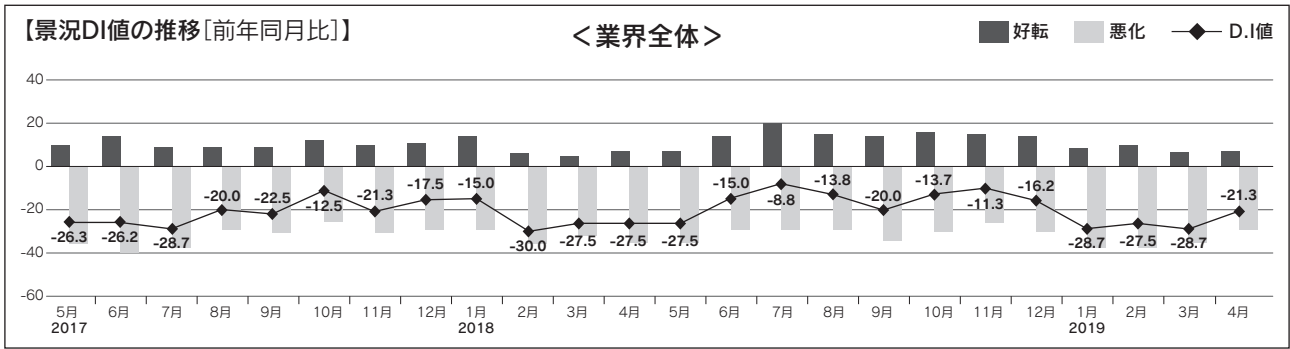
【天気図の見方】  
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 ( 豆 腐 )	気温が高くなると豆腐の消費が落ち込むことから売上は低迷している。大手メーカーの安売りにより苦戦は続いている。
食 料 品 ( パ ン )	売上は前年と同様に推移している。秋田市内に全国でブームになっている食パン専門店がオープンすることになり、今後の食パンの売上に影響が出るのか懸念している。
食 料 品 ( 精 穀・製粉 )	3月に続き4月も繁忙期であるが、月後半売上が伸びなかった。原料の北海道小豆も昨年の不作から高値での取引が続いている。
織 維 工 業 ( ニ ッ ト )	ニット・カットソーは春夏物中心に販売量が増加することもあり、店頭の販売実績は振るわないが、生産量だけは昨年並みを確保している。ただし加工賃は厳しく、人件費や輸送コスト等の諸経費増加を吸収できていない。
織 維 工 業 ( 織 維 )	数量のある定番品が続いたため、売上は前年とあまり変わらなかった。工賃値上げの交渉中だが期待はできない。(県南地区)
木 材・木 製 品 ( 外 材 )	4月前半は年度初めの物流の活発化、後半は連休前の早期配送でトラックの確保が困難な状況が続いた。針葉樹構造用合板の原料の国産材化が進んでいるが、特に国産カラ松材の集荷が厳しい状況になっている。
印 刷	年度替わりの需要に加え、改元に伴う受注が増えてはいるが、10連休を控え納期調整、用紙の確保など負担も増えている。
窯 業・土 石 製 品 ( 生コンクリート )	4月の出荷数量は前年同月比80%と低い数字となると思われる。今後、秋田市内、県南地区で出荷が予想されるが、他地区では主だった物件が見当たらない。
鉄 鋼・金 属 ( 鉄 鋼 )	4月中旬までは手持工事を抱えている企業とそうでない企業との差が顕著に表れている状況であった。今後、活発な動きは連休明けになるのではと期待している。ただし、ハイテンションボルトの不足は相変わらず改善されておらず、工期等に深刻な影響が出ている。
そ の 他 ( 漆 器 )	4月後半に川連漆器伝統工芸館の販売ブースのリニューアルを行った。今まで店頭で陳列してなかった新しい商品が400アイテム以上増えた。沢山のお客様においていただきたいと思います。集客がある5月の売上に期待している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比96.4%で推移した。月後半は、大型連休に向けた量販店の商品準備等による一時的な需要増により、暫く続いていた前年同月比で90%割れを回避できた。
卸売業 (自動車中古部品)	鉄価格が8回下落、トン単価4,000円程下がった。使用済み自動車の在庫台数も前年同月を下回った。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり148円で前月比70銭、軽油は131円20銭で前月比1円10銭、配達灯油18ℓは1,659円で前月比22円とそれぞれ値を上げた。原油コストが値上がりし為替レートはほぼ横ばいだったが、卸価格の値上がりにより末端価格は若干の値上がりとなった。
商店街	高齢化やライフスタイルの変化の影響からか、購買行動やニーズ等の質的側面も大きく変化しており、小売業の収益は減少傾向に歯止めがかからない状況にある。(秋田市) 4月も3月に続き、入進学等の人の動きがあったのに加え、新元号発表に伴う期待感と商戦により若干の浮揚感がみられた。(湯沢市)
サービス業 (タクシー)	秋田交通圏の運賃改定から3ヵ月が経過した。徐々にその効果が出始めている。10日間の連休に備え、医療機関などでの用務を済ませる利用者が非常に多く、年末の繁忙期より注文が殺到したようである。
サービス業 (旅行)	国内131%、海外83%と久しぶりに大幅な取引増となった。一方で大型連休の影響で宿泊、交通手段を確保できず、中止せざるを得ない顧客も多かった。
建設業 (一般土木建築)	職人や技術者不足により、建築、土木工事とも忙しい状況にある。
運輸業 (トラック)	荷動きがあったのは肥料、部材などの大型荷物で4t車を所有している事業所は動きが悪かった。
その他 (砂利)	公共工事関連で生コン用骨材が比較的出荷があり、リサイクル材の不足でバージン材の出荷が増加した。(県南地区)